

万象点描



農的社会デザイン研究所代表 蔦谷 栄一氏

豊かな自然と大きな家族

「弱さや欠点 包み込む
愛の光に育まれ 今日も感謝
に生かしましょう 今日一日の
出来事は 私の心が作るも
の」

朝食前に行う子ども勤行の
最初に唱えられる朝の祈りの
一節である。これに続いて四
奉請(しぶじょう)、般若心
経、念仏などが唱えられ、3
分間の瞑想(めいそう)、そ
して総回向偈(そうえこう
げ)で締めくくられる。灯明
をともし、木魚をたたいてお
勤めをリードするのは小学4
年生のAちゃん。その所作は
堂に入ったもので、集まった
子どもも大人も一緒に手を合
わせお祈りする。

これは長野県伊那市高遠町
の、桜で有名な城址(じょう
じ)

■ 7世代先に何を残すのか

し)公園からさらに車で15分
ほど谷あいの道を上った山室
という集落にある山村留学・
フリースクールを行う特定非
営利活動法人(NPO法人)
フリーキッズ・ヴィレッジと
小規模住居型児童養育事業
(ファミリーホーム)を行うう
ずまきファミリーが合同して
の朝の活動の一場面である。
古民家を改装した建物の、
右側をフリーキッズ・ヴィッ
レッジが、左側をうずまきフ
ァミリーが使用している。
フリーキッズ・ヴィレッジ
は寄宿生活自然塾として、不
登校や山村留学の児童生徒を
受け入れ、山里での自給自足
による暮らしや大家族生活を
体験しながらの自立支援を主
たる活動としており、一般の
人もこれに参画できる。海外
も含めて子ども・若者の出入

りも多く、山里の暮らしや農
業を体験していく。

うずまきファミリーは、適
切な家庭環境を失った子ども
の社会的養護を行うもので、
児童養護施設などによる「施
設養護」ではなく、里親と同
じ「家庭養護」とされる「小
規模住居型児童養育事業」と
して「大きな家庭」の中で養
護していくファミリーホーム
である。養育者・管理者であ
る宇津孝子さんが現在5人の
子どもの里親となっている
が、子どもたちは日中、フリ
ーキッズ・ヴィレッジの子ど
もたちと遊び、一緒に行動を
ともにすることも多い。

ここでは自然農法中心で農
産物を生産しており、みそ・
しょうゆも含めてほとんどを
自給している。また子どもた
ちは村に700年伝わる獅子
舞を行い、伝統芸能を継承す
つある。

るとともに、村での共同作業
への参加などにより高齢家庭
への支援にも努めている。

過疎化が著しい山里に響く
元気な子どもの声は希望だ。
しかし縦割り行政の弊害で合
同での食事ができず、また経
済的にも運営は楽ではない。
フリーキッズ・ヴィレッジ
の理事長でもある宇津さん
は、ファミリジニは7世代先
のことを考えて行動すること
を知り、自分は7世代先のた
めに何を残していくか考えて
今の活動にたどり着いた」と
いう。その中核にあるのが、
「子どもたちに「自然とつな
がり、人とつながる村」を伝
えたい」という思いである。

今、ここには新たに里親にな
ろうとする人たちが3世帯集
まっている。地域の小学校で
はこの集落の子ともたちが大
きな割合を占める。「大きな
家族」は「村」へと変わりつ